

トークンレス・ワンタイムパスワード

PassLogic

エンタープライズ版

バージョンアップ概要とリリースノート(エンタープライズ版 v4.2.0)

2019/9/30



1. リリースノート
2. 主な機能アップ
3. 動作環境や仕様変更

PassLogicの歩み

マトリックス専用から「多要素認証プラットフォーム」へ高機能化！

1997

「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システム PassLogic認証方式を発明。

2000-2006

パソロジック方式の技術ライセンスを日本企業へ提供。

2008

Webサービス組み込み用APIを強化。スマートデバイスにいち早く対応。



2010

セキュリティポリシーや運用機能、連携機能など基本機能を大幅に拡充。英語対応し海外展開が可能に。マルチテナント版リリース。

2012

マルチテナント版機能拡充しサービスプロバイダのデファクト採用の礎に！
(ソフトバンク/富士通/KDDI/NEC/IJなど)

70万ID突破

2015



100万ID突破

エンタープライズ版の機能拡充。主要連携製品とメーカー間の検証を完了。ソフトウェアトークン提供開始

2017



IPアドレス制限、Windowsログイン、PKIに対応のメジャーバージョンv3.0リリース。

ハードウェアトークン対応、API提供開始のv3.1リリース

110万ID突破

1997

2000



PassLogic認証方式が米国特許(US6141751)を取得。会社設立。

2007

PassLogicのパッケージ販売を開始。SSL-VPN連携機能を実装。

2009

Webアプリとの連携機能 (リバースプロキシ&SSO) を実装。LDAPからのユーザーID同期を実装。

2011

クラウドアプリ連携 (SAML) に対応。スマートデバイス最適化。

2013

運用の自動化を実現する機能拡充。

80万ID突破

2014

小規模から大規模要件まで対応可能なエンタープライズ版をリリース。

90万ID突破



2016

利用者視点の機能強化を中心に、計5回のバージョンアップ、約70の機能追加・改善を実施。

2019

エンタープライズ版にマルチテナント機能提供開始

2019



V3系のライフサイクルについて

2019年3月のPassLogic Ent v4系のリリースに伴い、v3系のライフサイクルが下記の通り確定しております。

対象バージョン	EoS	EoL
PassLogic エンタープライズ版 v4系	v5.0の提供開始後に日時決定	EoSから5年後
PassLogic エンタープライズ版 v3系	2019/8/31	2024/8/31
PassLogic エンタープライズ版 v2系	2017/11/18	2022/11/18
PassLogic エンタープライズ版 v1系	2015/10/15	2020/10/15

メジャーバージョンアップ版は年間保守サポートサービスのなかでソフトウェアプログラムをご提供します。

EoS : End of Sales (販売終了)
EoL : End of Life (サポート終了)

リリースノート

リリースノート

pickup 左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

【新規機能】

なし

【機能拡張/改善】

- SAML連携において、SPから取得されたXMLメタデータのインポートに対応 **pickup**
- 一定期間、初期パスワードが変更されていないユーザを無効にするスクリプトの追加
- 冗長構成時において、リカバリ処理が求められる状態の場合、メンテナンス画面のDBステータス背景を黄色表示するよう変更
- CSV一括登録機能による特殊パラメータ（ADパスワード、password1～5）の取り込みに対応 **pickup**
- LDAP ID同期によるユーザ作成においても、管理者指定のパターン発行に対応 **pickup**
- PassClip PIN、TOTP PINをユーザが変更できるように対応
- Citrix StoreFront3.1用のリバースプロキシ連携向け連携モジュールを同梱
- クライアント証明書の識別名とユーザIDによる検索に対応
- コマンドラインによる、ユーザー情報CSV一括ダウンロードに対応
- 監視用APIとして、ハードディスク容量を取得するAPIを追加
- リバースプロキシ連携において、MIMEタイプがHTML以外であってもコンテンツ変換の対象として設定できるよう対応
- リバースプロキシ連携時にHTTPリクエストヘッダに追加するパラメータ（AuthPasslogicParam1-10）のurlエンコードに対応
- SAMLレスポンスに使用するRecipientをhtmlエンコードするように修正
- Webトークン用UI（token.php）にパターン変更ボタンを追加 **pickup**
- LDAP認証連携において、ライセンス期限が切れた状態であっても、ログインができるように変更
- SSO連携モジュールをRFC2965に準拠するように変更
- メンテナンスツールと管理ツールに相互リンクを設置



主な機能アップ

SAML SP のXMLメタデータインポートに対応

SAML SPから取得したXMLメタデータをインポートすることで、SAML連携設定をすることができるようになります。

従来は設定の手入力が必須

No.	<input type="text" value=""/>	<small>(*) プロバイダの表示順を入力してください。0で強制的に非表示にできます。</small>										
プロバイダ	<input type="text" value=""/>	<small>(*)</small>										
SAMLタイプ	<input type="text" value="SP initiated SSO"/>											
NameID フォーマット	<input type="text" value="urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:unspecified"/>											
UIDタイプ	<input type="text" value="uid"/>											
ドメイン	<input type="text" value=""/>											
RelayStateURL	<input type="text" value=""/>											
Recipient	<input type="text" value=""/>											
Destination	<input type="text" value=""/>											
Issuer	<input type="text" value=""/>											
Audience	<input type="text" value=""/>											
PassLogic FQDN	<input type="text" value=""/>	<small>Idp metadataを利用する場合は必須です。ユーザアクセスURLの一部 "http(s)://<PassLogicFQDN>" を入力してください。</small>										
Attribute mapping 1	<input type="text" value=""/> - <input type="text" value=""/>											
Attribute mapping 2	<input type="text" value=""/> - <input type="text" value=""/>											
Attribute mapping 3	<input type="text" value=""/> - <input type="text" value=""/>											
Attribute mapping 4	<input type="text" value=""/> - <input type="text" value=""/>											
Attribute mapping 5	<input type="text" value=""/> - <input type="text" value=""/>											
アクセスグループ	<table border="1"> <tr> <td><input type="text" value="--"/></td> </tr> <tr> <td><input type="text" value="--"/></td> </tr> </table>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	
<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>								
<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>								
IPアクセスグループ	<table border="1"> <tr> <td><input type="text" value="--"/></td> </tr> <tr> <td><input type="text" value="--"/></td> </tr> </table>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	
<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>								
<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>	<input type="text" value="--"/>								



メタデータのインポートにより設定値を反映可能に！

SP メタデータ アップロード

アップロードされたSPメタデータの設定値を反映します。保存前の設定は削除されるためご注意ください。

選択されていません

CSVから、ADパスワードの取り込みが可能に！

SSO用のパスワード情報を、管理者、ユーザのどちらも知らない運用が可能になります。

PassLogic認証サーバに登録するパスワード情報には、パターン情報などの認証に使うものと、PassLogicから連携先アプリに引き渡すシングルサインオンに使う情報（ADパスワードやpassword1-5）があります。

シングルサインオン用の情報を、管理者にもユーザにも教えたくない場合に今回の機能がご活用いただけます。

LDAP同期でも指定の初期パターン発行に対応

LDAP ID同期の際に、初期パターンをランダムでしか発行できませんでした。が、本バージョンから初期パターンを管理者指定のもので発行できるようになりました。

LDAP属性値マッピング定義

ユーザID (*)

メールアドレス

氏名

社員番号

部署

電話

ポリシー

デフォルト値 -- ▾

※特定の属性値が設定されない場合、デフォルト値に指定したポリシーを適用します。

デフォルト値に指定したポリシーの共通初期パターンを設定する

01	02	03	04	17	18	19	20	33	34	35	36
05	06	07	08	21	22	23	24	37	38	39	40
09	10	11	12	25	26	27	28	41	42	43	44
13	14	15	16	29	30	31	32	45	46	47	48

管理者による
指定が可能に！

Web Token 用UIにパターン変更ボタンを追加

Web Token 利用時にもユーザ任意のタイミングでパターン変更が可能です。



- Web Tokenの使用
- Web Tokenを使用する際には有効にしてください。
 - パスワード変更ボタンを表示する

ポリシーの設定で
ON/OFFの選択ができます